

立命館大学建設会

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
環境都市系事務室内
平成30年8月

第32号

会長挨拶

建設会会長

桑山 忠

昭和三十九年生



一昨年の建設会総会におきまして会長を拝命し、就任後二年目になります。引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

建設会会員の皆様方におかれましては、建設会の活動に暖かいご支援、ご協力を平素より継続賜り、心より御礼申し上げます。

会長に就任しまして以来、昨年同様各支部の総会や環境都市系(現都市システム系)の卒業記念パーティなどに出席をさせて頂きましたが、各支部の活性化に向けた支部役員の皆様のご多大なご努力や学系の先生方のご尽力に対し、此処に改めて心よ

り敬意を表したいと存じます。特に恒例の三月に開催されました環境都市系(現都市システム系)三学科の卒業記念パーティでは、夢と希望に満ち溢れた若い後輩の皆さんを再び拝見し、自分自身の卒業式の頃を懐かしく思い出し、当時に比して大きく成長した大学を嬉しく思っております。

「立命館の卒業生であるという誇りを忘れず健康に留意して仕事に取り組んでほしい」という気持ちで話をさせて頂きました。さて、甚大な被害をもたらした東日本大震災から八年が経過しまし

来たるVUCAの時代にどう対応するか

都市システム学系 学系長

神子 直之



Volatile, uncertain, complex, ambiguous (移ろい易い、不確実、複雑、曖昧)の四つの頭文字をとってVUCA、今後の社会情勢の見通しを象徴する用語として用いられる。

確かに、AIの台頭による第四次産業革命が既存の職を人間から奪いつつあり、一〇年から二〇年後には今の約四十七%の仕事が自動化されるリスクが高い、今の子供たちの六十五%強が大学卒業時に現在まだ存在していない職業に就く、等の論説もある現在である。そのような状況で、将来の社会基盤整備を担う人材を輩出する我々(大学と同窓会組織)は、どのように考えて教学を全

うすべきであろうか。この話はひとまず置いておいて、この記事は二〇一八年度学系長を拝命した環境都市工学科の神子が担当させて頂いたいただきます。

まず、旧環境都市学系の新たな装いについて。本年度より、かつて環境都市学系を構成していた都市システム工学科と環境システム工学科とを合併により新たに環境都市工学科となり、建築都市デザイン学科との二学科で都市システム学系(名称変更)を形成することとなった。新学科である環境都市工学科は、本学理工学部の中でも定員の大きな学科の一つとなり、二〇一八年度には一五〇名

を越える新入生を迎えた。学年が進行するにつれて二回生からは都市システム工学科と環境システム工学科に分かれる。専門科目の分類では、都市デザイン・計画系科目と応用力学・材料系科目は両コース共通で配置され、都市システム工学科は防災・維持管理系科目を、環境システム工学科は環境工学・環境実習系科目を学ぶこととなる。四回生からは学生それぞれの所属コースにとらわれずに研究室に配属されて卒業研究を行う。共通科目とコース別科目をバランス良く修得することで、より社会で役立つ人材の輩出を意図している。

学系教員については、本年度四月に、環境都市工学科に山田悠二特任助教、建築都市デザイン学科に福山智子准教授が着任され、都市システム学系の教学の担い手として活躍いただいている。九月には建築都市デザイン学科へさらに本間睦朗教授

が着任予定である。建築都市デザイン学科の青柳憲昌准教授と環境都市工学科の清水聡行講師は昇任により職名が変わった。また、二〇一八年一月より環境都市工学科の深川良一教授が理工学部長の任に当たられている。

さて、冒頭の話に戻るが、戦後の高度成長期を支えた世代に親に持ち、新人類と呼ばれバブル時代に就職期を迎えた私の世代と、私の世代を親に持つ今の学生達には明らかに異なる境界条件がある。それは様々な技術開発を背景とした輸送や移動手段の進化、年齢の七〇%化、価値や志向(および嗜好)の多様化、終身雇用制の崩壊、デジタルネイティブとIoTの進行、等、様々な現象の様々なレイヤーにおける変化である。さらにVUCAの時代となると、従来の教学で十分なのか立ち止まって考える必要があるように思える。今後重要であり続けると考えら

たが、その後も、地球温暖化が原因と思われる集中豪雨による河川氾濫や土砂災害、そして、最後は地震も頻発するなど、わが国における自然災害からの復旧と防災の取り組みは常態的に喫緊の課題となっております。再度振り返りますと、東日本大震災発生後の二〇一一年九月には紀伊半島大水害、以下昨年述べたように大規模な自然災害が発生しております。最近身近な地震の具体例で地震情報について示しますと、本記事記入の最中に確認できる地震情報で震度一以上を観測した地点と地震の発生場所(震源)やその規模(マグニチュード)の情報からは、五月二十日から二十七日までの一週間で二十一件、二十一日二件、二十二日三件、二十三日三件、二十四日二件、二十五日十三件、二十六日十二件、二十七日四件と四十件発生しており、

その場所は長野県十二件、新潟県五件、茨城県五件、熊本四件、宮城県二件、その他となり、最大震度は長野県北西部の震度五が最大です。技術者の必要な情報と考えます。また地震に伴う被害あるいは危険な状況については現地を踏査するだけで多くの危険箇所を指摘できます。私の住む愛知岐阜三重県では地盤状況は三〇〇m級の山々から〇m地帯まで実に様々な環境を有しています。災害については低地でいえば安八の堤防決壊が記憶に新しく、高い山に登れば落石間近と思われる岩々が列をなしてしまっていて王滝村の地滑り深層崩壊も記憶に新しいところです。

大先輩から卒業間近の若い世代まで世代を超えて集える建設会をめぐって各種の取り組みを進めて参りますので、皆様方のご支援、ご協力を重ねてよろしくお願ひ申し上げます。最後に、建設会会員の皆様方、学系の先生方のご活躍とご健康を心より祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

会員の声

建設会京都支部の目的



京都支部支部長
出口博一
昭和五十一年卒

昨年の十二月に、かねてからお世話になってきた立命館大学都市システム工学科特別任用教授の塚口先生から、特殊講義「技術者のキャリア」、平たく言えば、理工系学生の進路とされる様々な業種、職種に携わる講師によるリレー形式の講義で講師の関わった仕事、技術開発など業界の現状や動向、技術者に求められている資質などについて、一コマ九十分講義して欲しいと依頼され、後から後悔することになるのであるが、お引き受けし、話させて頂いた。少し前置が長くなって恐縮であるが、私は当時の土木工学科を卒業して、京都市交通局に奉職、地下鉄建設に携わった。ところが、ある契機を経て四十半ばで突如、総務課長を拝命し、それ以降、交通事業の健全化に携わり、退職した。あまり、こんな経歴の持ち主はいないと思ひ、「ちょっと変わった土木技術者の地方公務員人生」というタイトルで話させて頂いた。様々な講義となったが聴講してくれた学生のアンケートを読ませて頂くと、意外と聞いてくれていたことが解り嬉しくなった。

に、建設会の本来の目的があるような気がして、支部長に就任して一年、何もしていないのを恥じながら、触れてみたいと思つたからである。

この講義の目的は、進路決定にあたっては幅広い選択肢の中から自分らしい進路を自分の「思い・志」で「自己決定」することが重要とされ、そのためにも、様々な社会、国、地域、業界、企業、働き方、戦略、展望、企業理念、働いている人の想い、業界・企業同士の関係性：等々に触れ、社会と自分を結びつけて考える「自分と向き合う」ことが必要で、そのために、「技術者のキャリア」を上手く活用しようと、目的づけられていた。

この考えは、社会人となった私たちにも必要なことだと思つている。様々な方の生き方、考え方をまねる、俗に言う「パクる」は、恥じるのではなく、そこからオリジナリティを出していけば良いと思つている。建設会の目的、京都支部は「会員相互の親睦を図ること」と明記しているが、まさに、親睦を図ることによって、様々な社会を知り、自分の活動に結びつけていくことだと思つた次第である。残りの任期、このようなことに少しだけでも、お役に立てれば幸いである。皆様方の力強いご支援を心よりお願い申し上げます。

四国お遍路の体験記



岐阜県建設会幹事長
関谷行正
昭和五十五年卒

た。お遍路の願意は、六十年の生に対する御礼です。貴重な紙面をお借りして紹介させて頂きます。

四国お遍路とは、四国で生まれた空海ゆかりの八十八箇所を巡礼することです。歩き、自転車、自動車など交通手段は問いません。私は外国人歩き遍路の多さに驚きました。特にフランス人が多いと感じました。日本人はイタリアした年齢層が多いですが、外国人は現役世代が多く、七週間以上の長期休暇をとつてお遍路にきています。日本も働き方改革を議論していますが、まだまだ欧米には追いつかない感があります。

私の服装は登山用の上下に、お遍路定番の同行二人の金剛杖、白衣、輪袈裟、菅笠、参拝用具の入った頭陀袋、そして八キロの重いザックのみ《退職し代わりに遍路の重荷背負い》です。

参拝の方法は、歩き遍路必携の地図を見て、山門に到着します。山門で一礼し作法に従い本堂、大師堂で参拝し納経所で納経してもらいます。お昼には、昼食を摂りながら、その日の宿を予約します。大型連休を除き当日の昼の予約で宿を確保することができました。

遍路道は、平安時代から歩かれてきたみちです。現在の形態は、アスファルト舗装の道路、自然の山道の二種類に大きく分類されます。私は木漏れ日の中落ち葉を踏みしめて歩く山道が好きです。落ち葉が足の裏や膝に優しいからです。

お接待はお遍路をもてなす四国独特の文化です。私はお菓子、果物等等、数十回のお接待を受けました。苦しいときのドリンクのお接待は、涙が出るくらい嬉しかったです。

五月十二日に八十八箇所所結願しました。その時の気持ちは、《結願を迎えて嬉しい日》でした。一番礼所にお礼参りをし、高山山奥の院に再び参拝し金剛杖の



中のお大師さまとお別れをすると満願です。満願はさらにひとしおの感激と寂しさがあります。そして五月十七日、無事帰宅できました。

四国の歩きお遍路は、自分を見直す絶好の機会でした。一人遍路を通じて自立できる自信ができました。そして、今までお世話になった人、特に家族に感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。スマホのアプリでは、歩いた距離千キロメートル弱、登った階数二千階弱でした。《お遍路は登っては降りの繰り返し》です。四国遍路が益々盛んになり、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路のように世界遺産に認定されることを切に望みます。次はここを目指したいと思ひ始めた今日この頃です。

広島県支部三十年の思い出



広島県支部
上野康史
昭和五十七年卒

私卒業してゼネコンに就職し工事現場を数か所経験した後、営業職に配属になったのは二十八歳だった。最初の赴任地は山口営業所。大阪出身の私にとって「何故？」という思いであった。営業経験など微塵もない私は戸惑いながらも現地の所長に「営業」を学んでいった。そして三十歳で広島支店に移されゼネコン業界を更に深く学んでいく中で、ある日公共工事の現場説明会で他社ゼネコンの先輩営業マンの方に声をかけて頂いた。「君は関西訛りやな。大学どこ?」。それが私の建設会広島県支部との出会いであった。土木工学科の大先輩であるその方にその後も可愛がって頂き、現役時代応援団リーダー部だった私は、総会の最後の締めにか歌やグレート立命のリードもさせて頂いた。

その後、当時支部長だった方が広島県校友会の会長になられたのをきっかけに、広島県校友会のお手伝いもするようになり、現在副会長も仰せつかっている。

当時の建設会は大変な盛り上がりで、総会はもちろんゴルフコンペも多数参加され、若造の私は使いつ走りであったが多くの諸先輩に可愛がって頂き、立命館の土木出身である事に喜びを感じたものである。その後時代がどんどん変遷し、業界にも大きなうねりが押し寄せて、母校の土木工学科も呼び名が変わるなど随分と土木のイメージも変化した。過ぎ去った古き良き時代へのノスタルジーはあるものの、災害なども増え社会のインフラを支えるこの業界の使命は益々重要になりつつあると思う。

私は三十一歳で山口の女性と結婚し、三十二歳で外資系の生命保険会社に転職し、広島支社も任され、今年還暦で定年を迎える。二人の子供は広島で生まれ育ち現在大阪にいる。しかし、仕事が変わっても建設会に関わり続け、そこで出会った方々とは今も同窓としてお付き合いを頂いている。すのでお亡くなりになった大先輩の方々も含め、建設会や校友会で出

人間回復の橋



建立会
久後雅治
昭和五十七年卒

会つたすべての同窓の方々に感謝の気持ちでいっぱいである。

恩師である明石外世樹先生がよく仰つていた、「君らは卒業したら立命の土木出身で良かったと思ふ日がそのうち来るよ」と。私はその言葉の意味を実感し噛みしめている。

今年の五月、「人間回復の橋」開通から三十年、というニュースの見出しが目にとまりました。国立ハンセン病療養所がある瀬戸内市沖の長島と本土を結ぶ久長島（おこながしま）大橋が開通から三十年を迎えたことを伝える記事でした。ニュースは、記念式典の様子や、長年の悲願だった。言葉に表せないほどうれしかった。との自治会長さんの言葉を報じていました。

今から三十年前の一九八八年、当時二十八歳であった私は前職の橋梁メーカーで、邑久長島大橋の設計担当者でした。学生時代に最も感動した映画が、名画座「京一会館」で観た松本清張原作「砂の器」でした。その映画でハンセン病患者が差別を受けていたこと、瀬戸内海の島に隔離された病院があることを知りました。それ故社会人になって、島民にとって長年の悲願であった架橋プロジェクトに自分が携わることになり、身を引き締まる思いでした。邑久長島大橋は橋長一八五m、中央径間は一〇七m、支間長一三五mのランガート橋です。卒業研究で、故伊藤敏一先生ご指導のもと天草五橋の一つ大矢野橋を手本にランガート橋の設計をした時から、アーチ橋を設計することが私の夢でもあ

りました。

当時、在籍していた会社はアーチ橋の工事実績が少なかったため、試行錯誤の連続でした。工期短縮を図るために、兵庫県の播磨工場から架設地点までの約六十kmを、フローティングクレーン（FC）で重量約六〇〇tの橋を吊り上げたまま海上運搬しました。吊り上げ時は橋を支える場所が完成時と異なるため、部材を補強する必要がありました。また、FCで吊り上げた時に命綱となる吊り金具の形状、取り付け位置や角度などを過去の事例を調べながら慎重に設計しました。会社として初めての一括架設工法でしたので、「万が一、輸送中に吊り金具が壊れたら」という話になり、「別の太いワイヤーで橋を大巻にする」とか、「緊急時に寄れる港を探す」など、大まじめで議論していました。結果的には、吊り金具の安全率を大きめに設定することで決着しました。工場の岸壁でFCに吊り上げられた橋が架台から、ふわっつと浮き上がる瞬間は、とても緊張したことを今でも鮮明に覚えています。架設地点到着後は、長島の病院の方々に見守られる中、FCで吊り上げたまま一気に据え付けられました。わずかな余裕しかない隙間に、寸分の狂い無く据え付けるFC運転士さんの熟練した技術に驚かされると共に、一日にして本土と長島が陸続きになり長島の皆さんが喜ばれているのを見て感動しました。

邑久長島大橋開通三十周年のお祝いのニュースを聞いて過去を振り返る機会となりました。今思えば若き日に、経験のないことや予測が難しいことに直面しても、先輩の指導を仰ぎながら過去の事例や文献を紐解き、一つひとつ解決したことは貴重な経験でした。邑久長島大橋の仕事は土木技術を追求しながら自分自身を成長させてくれただけでなく、土木技術で社

会に貢献できる喜びを教えてください。若い土木技術者の皆さんにも、是非そのような喜びを経験して欲しいと願います。

既設橋梁の耐震補強



三重県支部
尾市知己
平成十年卒

三重県庁に勤めて二十年の月日が経ちました。これまで私は三重県庁で、道路、河川及び港湾の業務に携わってきましたが、ここでは、私の業務経歴で最も長い橋梁設計の内、「既設橋梁の耐震補強」についてご報告したいと思います。兵庫県南部地震は私がBKC一回生の後期試験期間中に発生しました。

三重県ではこの大規模地震を受けて、緊急輸送道路に架かる橋梁と跨線橋・跨道橋の耐震対策を進めてきています。これまでに落橋防止等の耐震対策は概ね完了しており、現在は支保、橋脚柱及び基礎工の耐震対策を進めています。

その一方で、今後三十年以内に於ける東海地震、東南海地震の発生確率は八十七％、六十％と高い数値を示されています。しかしながら、三重県における緊急輸送道路に架かる橋梁の耐震化率は約七十六％と未だ大規模地震への備えが完全に整っていない状況にあります。

さらに、どの自治体も同じだと思いますが、社会資本整備の財源は毎年減少し続け、ピーク時の六割程度まで落ち込み、耐震対策に充てる財源確保が厳しい状況にあります。こうしたことから、橋梁に切迫する大規模地震に対して、いかに短期間で効率的に備えるかが課題となっております。

このため、三重県では左記の二点を考慮して既設橋の耐震対策を進めています。

① 橋梁の損傷度を考慮した耐震対策

橋脚の耐震対策は既設橋を対象とすることから、河川条件や現場条件により基準書をすべて満足させる補強は困難な場合が多い状況にあります。このため、大規模地震後に速やかに緊急輸送道路としての機能が確保できる範囲内で一部の部位で損傷を許容する耐震対策を行っています。

② 橋脚全体の耐力バランスを考慮した耐震対策

兵庫県南部地震以降、三重県では橋脚の曲げ破壊及びせん断破壊を防止し、靱性を向上させるために柱の巻立補強に集中投資してきました。ところが、一部の橋梁においては橋脚の基部を巻立補強することによって基礎部が耐力不足となる場合があります。このため、基礎を含めた橋脚全体の耐震性能照査を詳細に実施して大規模地震時にどの部位を、どのような順序で損傷させるのかをあらかじめ検討するようにしています。その上で橋脚全体の耐力バランスを考慮した当該橋梁に最適な耐震補強を実施しています。

しかしながら、耐力バランスを考慮した耐震補強設計を実施するには、既設橋脚の配筋等を十分に調査したうえで、動的照査を実施する必要があります。また、動的照査はモデル、入力条件により結果が大きく異なることから、設計コンサルタントの方々とともに業務を進めることができる職員の技術力も向上する必要があると考えています。最後になりますが、張り詰めた橋梁設計協議においても、名刺を交換させていただいた方が立命建

設会員であることを知ると、学生時代の話題を通じて場が和み、協議がより効率的に進むような気がします。今後の立命建設会の益々のご健勝・ご活躍を祈念いたしまして、私の近況報告とさせていただきます。

近況報告



和歌山支部
森 敏彰
平成十六年卒

私は平成十六年度に琵琶湖草津キャンパスの環境システム工学科を卒業しました。初めてキャンパスを訪れたのはオープンキャンパスの時で、正門を抜けてすぐにある大きなグラウンドや綺麗な校舎がいくつもあることに驚いたことを今でも鮮明に覚えています。大学では交通工学に興味を持ち、車の挙動について研究しました。大学時代は一人暮らし、アルバイトをして友達ともよく遊び、それなりに勉強もして、とても有意義な時間を過ごせたと思います。強いと言うなら、京都の衣笠キャンパスに一回しか行けなかったことが心残りです。（学園祭でホットドッグを売りました。）

大学を卒業して和歌山市役所に勤めて十数年経ちますが、採用面接時に、道路に携わる仕事がい、という思いが伝わり、これまでに主として道路事業に関する業務に携わってきました。道路改築、維持管理を経験し、現在は道路政策に関する業務に携わっています。その中でも私は自転車通行空間の整備について取り組んでおり、自転車利用者が安全、快適に通行するためのには、どういった整備がよいのか検討し、少しでも和歌山の道路環境を良くし、和歌山の発展に繋がればという思いで日々精進しています。

着任の挨拶



建築都市デザイン
学科 准教授
福山智子

話は変わりますが、自転車といえば和歌山県ではサイクリング王国わかやまを掲げ、海、山、川のサイクリングロードの整備を進めています。和歌山市内においては、海と川のサイクリングロードが整備されています。また和歌山市内では、今年、シェアサイクルが始まりました。昨年には万葉集の短歌で詠われた風光明媚な和歌の浦が日本遺産として登録され、また皆さんご存知の和歌山城は今年十月に天守閣が再建六十周年を迎えます。和歌山城の敷地の中には動物園や茶室があり、おもてなし忍者が皆様をお待ちしています。和歌山には他にも見所がたくさんありますので、近くにお越しの際は、レンタサイクルやシェアサイクルを利用して観光地を巡ってみてください。

この春より建築都市デザイン学科に着任いたしました福山智子と申します。専門は建築材料、特に鉄筋コンクリートを対象として、実験室実験・実構造物の調査の両面から構造物の耐久性に関して研究を進めております。着任してまだ三ヶ月に足りませんが、立命館大学の環境のすばらしさや学生さんの活気あふれる様子に触発されています。

私は名古屋大学の谷川恭雄教授、森博嗣助教授、黒川善幸助手（現・鹿児島大学准教授）の研究室を二〇〇四年に修士卒業し、その後東京大学の野口貴文准教授（現・東京大学教授）と兼松学助教（現・東京理科大学教授）のもとで二〇一〇年に学位を取得するまでお世話になりました。修士入学後

に現在の私の研究の主たるテーマの一つである鉄筋の腐食診断に関する研究が始まりました。当時は交流インピーダンスや電気化学ノイズといった電気化学的な指標を用いて鉄筋/コンクリート界面で起きているミクロな現象を把握につとめていましたが、現在はこれに加えてコンクリートの電気化学的性質に関する研究、特に誘電緩和現象に関する研究を行っています。

博士を修了した二〇一〇年四月からは、実務構造設計家の佐藤淳氏が東京大学に准教授として研究室を立ち上げる際に研究員として参画しました。研究室ではガラスや銅などを構造部材として用いた設計や解析プログラムの開発、実験などが多く行われ、各種材料の取扱いや実務のスピード感に合わせたプロジェクトの進行について学びました。このような日々のさなかに東日本大震災が発生しました。現地調査で被害を目の当たりにした衝撃は大きく、コンクリート構造物の耐久性について実感を持って考え始めたのはこれが契機だったように思います。

三年のポストドク時代を経て二〇一三年の四月に北海道大学に助教として着任し、千歩修教授、故・長谷川拓哉准教授と合わせて三名の研究室が始まりました。寒冷地の建築材料学研究室というところで、これまで行ってきた腐食の研究だけではなく、コンクリートや外装材の凍害、融雪剤による塩害などについても研究を実施しました。また、二〇一六年九月末からはVisiting Scholarとして米国SeattleのUniversity of Washington、十ヶ月、New YorkのColumbia Universityに二ヶ月滞在し、このときはじまった共同研究を現在も継続しています。今振り返ってみると、多くの先生方や周囲の方々から数え切れないくらいのご支援をいただい

り、また大学という環境からも得るものが多かったように思います。これまでは私が恩恵をいただくばかりでしたが、今後は立命館大学の学生や教職員のみならず、社会に、私の経験や研究成果などを還元していければと考えております。

着任の挨拶



環境都市工学科
特任助教
山田悠二

今春より、環境都市工学科に着任いたしました山田悠二と申します。専門分野はコンクリート工学です。私はこれまで、フレッシュコンクリートの施工性能の定量的評価を主なテーマとして研究を行ってきました。

少子高齢化の影響から、建設技術者が今後、減少することが予測されます。一方で、コンクリート構造物の構造性能に対する要求水準は高くなってきていることに起因し、有効鋼材量が増加していることなどから、コンクリートの施工においては、充てん不良などの初期欠陥の発生リスクの増大が懸念されます。したがって、建設施工の現場においては、生産性の向上が求められると共に、これまでに以上に高い技術力が求められます。このような状況に対応するためには、高い施工性能を有する、良質なフレッシュコンクリートを供給できることが重要です。そのためには、フレッシュコンクリートの施工性能の定量的な評価が必要であり、私はその評価方法を検討して、さらに、得られた結果に基づき、コンクリートの配合条件の見直しを図るサイクルの構築に向けて活動しております。またこの他にも、産業副産物のコンクリー

ト用材料への有効利用や、コンクリート構造物の非破壊検査手法に関する研究も行ってまいります。

私は、二〇一七年に徳島大学大学院先端技術科学教育部 博士後期課程を修了いたしました。在学中にはコンクリート工学研究室 橋本親典教授のご指導のもと、フレッシュコンクリートの流動性と材料分離抵抗性のバランスを考慮した配合設計について学びました。また、同研究室 渡辺健准教授からは、コンクリート構造物の非破壊検査手法に関する現在の動向についてご教示頂きました。

大学院修了後は、高知工業高等専門学校（高知高専）に特命助教として着任いたしました。初めての社会人生活であることに加え、高校、大学という進路を辿ってきた私にとって、高専という環境も初めての経験であったため、大きな不安がありました。しかし、これまでは学生であった立場から、先生と呼ばれ、学生を指導する立場になったことに責任を持って、学生の指導にあたることを心掛けました。高知高専では、卒業研究生として二名の学生を受け持ちました。それまでは先輩として、後輩に研究の指導補助を行うことはありました。しかし、自分が指導教員として、学生に研究の意図や面白さを一から分かりやすく伝えることは、大変難しく、時間を要することをこのとき痛感しました。この度、ご縁があつて立命館大学に着任させて頂いたこと、大変喜ばしく存じます。また、私の父は本学の土木工学科の卒業生（昭和四十六年）であります。今回、この会報に寄稿させて頂いたことを話した時の、父の喜びようは大変なものでした。親子二代に渡り、お世話になって立命館大学の、さらなる発展に貢献できるように、精一杯努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

立命館大学技術士会からのお知らせ

★同窓の技術士および技術士資格にチャレンジされる方は、当会へご連絡ください。

- ①技術士ネットワークの拡大と同窓・後輩支援として情報発信を行います。
- ②技術士資格挑戦者への試験対策支援を実施中です。

★『土木！この素敵な世界』をテーマとした電子書籍をAmazon Kindleストアで好評発売中。立命卒土木技術者達の力作です。ぜひ読んでみてください。

★当技術士会の活動に、ご協力いただくためにも技術士資格取得者の方々には、当会に技術士資格情報をお知らせ願いたいと思います。（当会への入会は問いません。）

★当技術士会の目的に賛同いただき入会をご希望の方は、ご連絡をお待ちしております。みなさんと一緒に、技術者の地位向上と社会への貢献に微力ながら前進させたいと願っております。

平成 30 (2018) 年 7 月 立命館大学技術士会幹事会

事務局連絡先：企画・窓口担当

E-Mail : rits.kikaku.mado@gmail.com

技術士会ホームページ

(<http://alumni.ritsumeijp/gijutsusikai/>)

第19回 建設会総会・特別講演会・懇親会開催

第19回建設会総会・講演会・懇親会を下記の要領にて開催いたします。ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、万してお繰り合わせの上、多数ご参加を戴きますようお願い申し上げます。

記

【日 時】2018年10月13日(土) 14時～19時

【場 所】京都タワーホテル

[京都市下京区烏丸通七条下ル JR 京都駅正面]

[Tel. (075) 361-3222]

【会 費】10,000円(平成20年卒・21年卒：5,000円)

【次 第】14:00～総会 15:15～特別講演会 16:30～懇親会

●参加申し込みは前納とさせていただきます(9月14日締切り)。

●同封の総会専用払込票にて、郵便局よりお振り込み下さい。

※詳細につきましては、別紙のお知らせをご参照下さい。

事務局より

お知らせ

■会員登録データ

建設会会員名簿を隔年発行しておりますが、そのもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、年会報の送付、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付いたしました年会報に同封されている「会員登録データ」をご確認いただき、修正や変更等がございましたら8月末までに建設会事務局までご連絡下さい。

また、今年12月初旬に「2018 会員名簿 [CD-R版]」を発行予定です。名簿は、会費を納入いただいている会員を対象に送付させていただきます(2年に1度の発行ですので、2017年度・2018年度分の会費納入者、ならびに終身会員に送付させていただきます)。

なお、2017年度分の会費をまだお納めでない方は、同封の振込用紙にて2年分の会費(2017・2018年度分：6,000円)を納入いただきますと、

▶名簿お取扱いについて

名簿は、会員の皆様の大切な個人情報を掲載しております。名簿をお持ちの会員様は、その保管およびお取扱いには十分ご注意くださいようお願い致します(転売厳禁)。

なお、ご不要になった名簿につきましては、お手数ですが焼却あるいはシュレッダー処分をしていただけますようお願い致します。

発行と同時に名簿をお送り致します。

■建設会年会費ご納入のお願い

立命館大学建設会は皆様の年会費で運営されています。

2018年度会費のご納入をお願い致します(年会費：3,000円)。

また、会費ご納入につきましては「郵便局の自動振替システム」をご利用いただくこともできます。お気軽に建設会事務局までお問い合わせ下さい。

なお、銀行からのお振込も可能です(ゆうちょ銀行109(イチゼロキユウ)支店、当座0000884)。お振込の際、お手数ですがお名前の前に10桁の会員コードをご記入いただくか、お名前・会員コード・お振込日を下記アドレスまでご連絡下さい(振込手数料は申し訳ございませんが、ご負担願います)。

※なお、8月11日～19日まで、大学一斉休暇となります。

何とぞご了承下さい。

建設会事務局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部都市システム系事務室内(担当:山元)
TEL:077-561-4911 FAX:077-561-2667

<https://ritsumeij-kensetsukai.net>
E-mail: kenstkai@st.ritsumeij.ac.jp
会費払込郵便振替口座:02 大阪 01080-1-884